

夏休みとくべつおにぎり

古河市立中央小学校 三年 中村 妃茉莉

「こんなに大きくなっている。」

夏休みに遊びに行くおばあちゃんちの近くは、たくさん田んぼがある。前に見た時よりいねが大きくなっている。金色のいなほが、
「こんにちは」と言っているようにおじぎをしていた。新しいお米がもうすぐできる。

おばあちゃんちにつくと、とてもいいにおいがした。ごはんがたけたにおいだ。

2

1

「もうすぐお昼だよ。妃茉莉の大すきなおにぎりを作って食べよう。」

と、おばあちゃんか、たきたてのごはんを持ってきてくれた。つめたいいど水でたいたごはんはふくららして、一つぶ一つぶキラキラして、うちのごはん少しちがった。
「今日は暑いけれど、みんなでえんがわで食べようか。自分のは自分でにぎる！」
「やったー！」

わたしと弟は、大よろこびでおにぎりをにぎ

りはじめた。

わたしは、お母さんのお手つだいで、時どきおにぎりを作る。いつものように、三角のおにぎりを作った。弟はまん丸のおにぎりを作った。アツアツのごはんだ。たので、にぎるのが大へんだ。

えんがわから見るけしきはなんだか気持ちがいい。セミがたくさんとまれる大きな木と、かわいい花があちこちさいている。遠くには、つくば山が見える。このけ色を見ながら食べ

3

るおにぎりは、今しか味わえないサイコーのおにぎりだ。わたしと弟は、あせをかきながら、む中でパクパクと食べた。

「ハイ。おかわり。まだ食べるよね？」
おはあちゃん。にぎったばかりのおにぎりを持ってきてくれた。大きな大きな、きれいな三角のおにぎりだった。「すごいな」と目の前まで持ち上げてみると、その後ろにも同じ形をした三角のおにぎりが見えた。緑色に光っているきれいなつくば山だった。

4